

日本鐵鋼協會記事

○日本鐵鋼協會第六回通常總會(承前)

大正十年三月二十六日午後二時三十分開會

○開會の辭

會長 小村 香 錄君

それでは是から本日の總會を開きます、此總會に於きまして先づ諸般の報告を致します譯でございますが、茲に任期満了になつて居ります役員、理事五名及び評議員半數の改選を致しますが、其投票の集まつて居りますのを取調べまして當選を定めるのでございますから、それを取調べますのに大分時間が掛ります、それで先づ第一に投票取調の爲に日向庄作君、落合畝三郎君の御兩名に御願ひ致したいと思ひますから、どうぞ御立合ひ下さいまして投票の一切御取調べを願ひます……それから報告は極簡單でございますから、此際、チョット前例に依りまして過去一ヶ年間の鐵鋼に關する大體の狀況を申上げて置きたいと思ひます暫時御清聽を願ひます。

昨大正九年は鐵及び鋼の事業に取りまして誠に慘澹たる悲況で一ヶ年を経過したやうな譯でございます、一昨大正八年は世界大戰の終局と共に、鐵及び鋼の事業に關して一大頓挫を來たしましたが、是は戦時中突飛な狀況であつた

爲め、戦争終局と共に必ず其反動が大に來るであらうと誰しも想像して居つた所でございます、併し我國に於きましては實に豫想して居つた程度よりも、餘程激甚なことになりました、海外殊に亞米利加などでは、此戦争中鐵及び鋼の輸出禁止をするとか或は公定相場を定めるとかいふやうな、詰り人爲的の抑制を致しました爲に、此戦争終局後に起つた反動はさう甚しくはなかつたので、我國と比べますれば頗る緩和の狀態であつたのでございます、併しながら全體としては我國でも米國でも同じやうに不況を免かれなかつたのでございますが、唯其程度に於きまして頗る相違があつたことを認めます、然るに一昨年秋頃から大に景氣が持直して參りました、其理由は歐羅巴諸國の改造用に多量の鐵や鋼が入用であるといふ見込もありましたのでございませうが、主なる理由は亞米利加に於て戦時中改修を怠つて居つた鐵道工事、レール、機關車、貨車等の補充を致さねばならぬ、又戦時中に着手の餘裕がなかつた造船業或は機械業、自動車の製造とか又は石油に使ひます鐵管の製造是等のものが大戰五年間に殆ど補充の出來なかつたものを一時に補充しなくてはならぬ爲に、非常に多量な鐵及び鋼が要ると云ふこと並にユー、エス會社始め各製鐵所が多量の註文未製品を有して居つて約一ヶ年位は註文引受の餘地がないと云ふこと、是等が主なる原因であつたやうであります、それがために大に景氣が付いて參りまして、我

國でも矢張り之と同じやうに漸次景氣が直つて參りました。昨年一月二月三月に至るまで益々好況を呈して參りました。所が皆さんも御存知の通り、昨年三月下旬我國に於きまして急激なる財界の變動に依りました。急轉直下の勢を以て非常に慘澹たる景況に陥りました。それで今茲にチョット二三の例を擧げて申しますると、東京に於きまして昨年の

一月には銑鐵一噸百三十八圓であつたものが漸次二月三月になつて百四十五圓に騰りましたが財界の變動によりまして俄に激落いたしました。四月五月頃に至りまして百二十圓に下がり、昨年の十二月に至つては九十圓に下りまして、更に今日になりましたは約七十圓見當と云ふやうな所の相場であります。開戦當時、大正三年の十二月に於ける四十圓に比較いたしますと一・七五倍であります。又大戦中最も高い四百六十圓に比しまして僅に一割五分ばかりにしか當らないと云ふ激落になりました。又鋼の方も種々ありますが、平均を取りまして申しますと、昨年一月は二百四十三圓九十錢のものが、十二月に至りましては百六十二圓六十錢に下り、現今に於ては百四五十圓内外の相場のやうであります。斯う云ふやうな状態でございます。銑鐵、鋼鐵共に内地の生産費を償ふことが出来ない状態でございます。製鐵の萎靡不振と云ふものは實に慘澹たるものであります。現に内地に於きまして熔鑛爐の數は確なもの三十三基、是は製鐵所を合はせたものであります。さうして

能力一日二千四百噸でございますが、此三十三基の中で事業を繼續して居るものが十基で三分の一にしか當りませぬ。能力は一日僅に千四百五十噸に過ぎないと云ふやうな譯であります。其他の二十三基は休業をいたし或は廢業に歸して居ります。鋼の方の統計は、チョット分りませぬが、是も亦同様な狀況で衰退いたして居ります。

斯の如く我國に於きましては昨年三月財界の變動以來製鐵業と云ふものは非常に悲慘なる狀況であります。一方、亞米利加を見ますと云ふと、一昨年秋頃からの好況はズツト持續いたしまして昨年の夏頃までまだ活氣を呈して居りました。こゝに市俄古に於ける二號鑄物銑の相場に就て申しますと昨年一月頃には四十弗でありましたものが八月九月に於て最高四十六弗を唱へるといふ様でありました。其後世界的の不況に連れられて漸次下向きになりました。十二月に至りて二十四弗半と云ふやうなことになりました。昨今は更に下りまして二十七八弗内外になつて居ります。詰り米國の不況は世界的經濟界の影響であります。我邦では財界變動の爲めに約六ヶ月早く不況が來つた次第であります。それで今回の大不況は申迄もなく戦時の反動であります。直接の原因は第一、財界の變動、金融の梗塞と云ふこと、第二、或向きの商人が迷惑の爲めに多量の鐵鋼を外國から輸入して我國の市場ストックを極度に膨脹したこと、是に秋頃から世界的な一般經濟界不振の影響が加はり

まして昨年から今日にかけて我邦製鐵事業は誠になさけない状態で経過いたしました。

一方、一昨年の戦争終局後一大頓挫を來しました頃からして、我國の製鐵業は此儘に置いてはいかぬ、適當の方法を以て振興の策を講じなければならぬと云ふことが朝野の間に起りました、そこで政府に於きましても大に注意をなされて昨年の十一月、臨時財政經濟調査會に製鐵振興策を諮問されました、それと同時に造船業の維持發展に對する根本政策の諮問案をも併せて提出されました、此兩案に對して特別委員と云ふものが十五名出來、本會々員の中にも多數委員になつて居られる方がございますが、それが一年の中には一二回開會されまして、それ以來昨年の春に及びましたが、彼の昨年の議會の解散及び總選舉の爲に委員會の會合も疎かになつて、其間は開かれなかつたのでございます、其後總選舉が了りまして夏頃から委員會を開きまして、特別委員の中から小委員が選ばれて答申の原案を作ることになりました、製鐵に關しては我が會員の今泉嘉一郎君及び大河内正敏君の御兩人が此小委員に當られまして答申案が出來ましたのでございます、それから今度は其出來ました案を更に特別委員會に懸けました、タシカ六回か特別委員會が開かれまして其案を幾分修正いたしました、委員總會に出すことになりましたのは諸君も御承知の通り新聞紙等に載つて居ります、委員總會は議會開會中の爲

に後れまして本年二月十四日に開かれました、さうして其特別委員の案を其儘可決いたしました、それを政府に向つて上申いたしました譯でございます、此期間に於て我が鐵鋼協會に於きましては評議員の中で、製鐵振興方策と云ふ意見書を掲へまして、當局竝に關係の方々配付いたしましたことは會誌に依つて御承知のことと思ひます、此臨時財政經濟調査會の成案と云ふものは略、我が鐵鋼協會の製鐵振興方策の意見書と大要に於ては異つた所はないやうでございます、然して之を基と致しまして、今度の議會へ關稅定率法の改正案竝に製鐵獎勵法の改正案の二つが本月十七日の議會へ提出されました急速なる進歩を見まして衆議院を通過いたし、昨日は貴族院の委員會を通過いたしました、唯今頃は貴族院の本會議で可決確定いたしましたことと思ひますが、丁度本日我鐵鋼協會總會の當日に此案が可決になると云ふことは悦ばしい次第と思ひます、是が本日貴族院で可決確定になつたならば、こちらの會へ電話で報告して貰ふことを頼んで置きましたから、後刻皆さんに御知らせ致すことが出来ることと思ひます、要するに昨年は先程申し上げました通りに、製鐵業に關しては非常に慘澹たる状況でありましたが、物窮すれば通ずると云ふ諺のやうに、結局此處らが極度で、謂はゆるどん底と云ふ所でありませうから今度鐵及鋼に關する法案も改正になつて相當の効果が現はれ尙此上朝野の努力に依りまして財界の安定と共に

漸を逐ふて恢復に向ふこと、信ずるのであります、亞米利加あたりの此道の有識者の持論と致しましても、近き將來に於て製鐵業は大に有望であると云ふことを申して居りますが、近來斯う云ふ説は諸方に散見いたします、其論旨を一々こゝで申上げるとは時間がございませぬから略しますが、相當根據があることに書いてあるやうでございます、それで今年になりましたは昨年の悲境を持直して、漸次恢復の徴候を現はして來ることと思ひます。

序でございますから申上げますが、製鐵の技術に關したことで此の技術の進歩と云ふことに關しましては、昨年は唯今申上げました通り、世界的に製鐵業の悲境でございます、何れの國に於きましても特筆するやうな技術上の改良進歩はございませぬやうであつたと思ひます、亞米利加の何かの雜誌に書いてありましたが、矢張り何も是と云ふやうな特別な進歩と云ふものは認めることは出來ないと云つて居ります、唯熔鑛爐のコンストラクションに於きまして朝顔の角度を段々大きくしてプロダクションを高めることと燃料經濟と云ふことを目的に朝顔の角度は近き將來に於て全く直立したやうなものになるかも知れぬと云ふ話であります、之に付ては多少意見もありませんが先づそんなことを言つて居ります、それから電氣製鐵に付きましては多少改良進歩を現はしたことがありますが、其他は別に大した面白いことはないやうであります。

それから茲に一つの世界の製鐵界を驚したことは、昨年十月アメリカン、アイヨン、エンド、スチール、インスチテュートの第十八回の總會に於きまして元の印度タタ製鐵會社のコンサルチング、エンジニヤアであつたペリンと云ふ人の演説に依りますと、印度の鐵鑛埋藏量と云ふものが頗る大きなものであつて、ハイ、グレード、オアアは是まで測量したものが二百億噸に上ぼると申し、それから石炭は是も大きなものであります、併し製鐵用に用ゆるケーキング、コールとしては比較的少くして、約二十億噸であると云ふことを述べ立て、居りますが、是は本會々誌の本年二月號の拔萃に出て居つたやうであります、極めて誇大なことであつて、亞米利加のアイヨン、オアア、レゾルスが四十五億幾らと云ふやうなことに記憶して居りますが、獨逸及び佛蘭西の鐵鑛量が双方合はせて約五十億乃至六十億、是は井上博士が能く御存知でございます、是等は我國の製鐵業者としては相當の注意を拂つて之を考査する必要があるかと思ひます。

終りに臨んで一言感想を申上げたいのは、昨年は前述の如く製鐵業の不況時代でありました、製鐵業のみならず鐵及び鋼を使用される所の諸般の製造工業、機械工業と云ふものも同じく不振の状態でありましたし、鐵及び鋼の商業に従事される方々に於いても困難は少なからぬことで、概して本會々員の大多數は何れも事業困難の時代でありまし

たやうでございます、それにも拘はらず本會は後刻御報告申上げますが、會員の數も少しも減少いたしませんで會の面目を保つて行くことが出来ましたことは大に諸君と共に欣幸として慶賀する所であります、尙ほ今後經濟界が安定いたしましたして、世の中の景氣が挽回されましたならば、一層發展を致しまして相當の貢獻を致すことを衷心から希望する次第でございます、誠に下らないことを申上げて、是で以て開會の言葉に代へます。(拍手)

○會長(香村小録君) 是から昨年度の會務の報告を致します。

〔會務報告〕 (前項に掲載せり)

○會長(香村小録君) 唯今の會務報告に付さまして別に御異議はございませぬか、若し御質問のやうなことがありましたならば……別に御異議もございませぬやうですから、それでは御承認のことと思ひます、尙ほ唯今役員選舉の投票の調が付きましたから御報告申上げます。

〔役員選舉報告〕 (前項に掲載せり)

○會長(香村小録君) もう別段御發言もございませぬければ、通常總會は是で了はりましたして直に講演會に移ります。それではどうか河村曉君御願ひ致します。

〔河村曉君の講演に入る〕 (次號に掲載す)

〔帝國議會提出案報告〕

○今泉嘉一郎君 會長、私はチョット三分間ばかり皆さん

の御集りの所で申上げたいと思ひます。

○會長(香村小録君) 宜しうございます。

○今泉嘉一郎君 私は此大會の席上で諸君に御報告する光榮を有するのであります、豫ての製鐵關稅問題及び製鐵獎勵法共に唯今、貴族院を全會一致で以て通過いたしました、尙ほ貴族院諸君の考では斯んなことで行くのか、斯んなことでは足りまいと云ふことでありました、それに對して政府の御答辯は、是では完全ではないけれども當業者に於ては十分出来るだけの技術或は經營の方法を講究してやる、さうすればどうやら斯うやらされる積りであると申します、而して之を最後とせず、今後は鐵と云はず總ての物品に就て二十年前に拵へた不完全な法案の如きものを總て改善して行く政策を執つて見たいと云ふ爲に、財政經濟調査會の方に特に豫算を繰込んだと云ふことであります。

次に申上げますのは此議會では我々エンジニア仲間には可なり重要と認める問題が出ました、新聞紙上で定めて御案内でもありませんが特許法案であります、是は殆ど根底的に改正になりました、是は各國の好い所を取つて拵へたもので、我が發明界はそこまで行つて居るかどうか知りませぬけれども、特許法案としましては誠に立派なものであります、特許局の如きは一局でなく、特許院と云ふ風にして、餘程權威のあるものとしてする、又其組織も立派な人を多勢集めて審判官としてやると云ふことになつたら

しいやうであります、其法案も兩院共に通過いたしました。それからもう一つは度量衡法案であります、是も漸く昨日兩院を通過いたしました、是も今度は全部メートル、システムに改正して仕舞ふと云ふことであります、是も我々エンジニアとしましては愉快なことであります、吾人一般の生活に對しましても、明治初年に大陰曆を廢したより以上の壯舉であります、それから鐵のことに付きました種々のことが出ました、例へば豫算の會に於きましても、九州の製鐵所運轉資金九千六百萬圓増額と云ふことが出ました、至る所同情を得て居ります次第でございます、是だけチョット報告いたします。

○會長(香村小録君) あと續きまして平賀博士に御講演を願ひます。

〔平賀讓君の講演に入る〕(次號に掲載す)

それでは此席を閉ぢまして懇親會に移りますが御出席なされます方は御足勞でございますが、新橋驛の東洋軒へ御運びを願ひます。

午後七時三十分閉場

○懇親會卓上演説

○會長(香村小録君) 今日の總會は近年にない多數の御方が御集り下さいました、實は御集まりが少くはないかと心配いたしました種々御無理を御願ひ致しました譯でございます

ますが、御忙しい所を皆さんが御出で下さいまして洵に悦ばしく存じて居ります、いつもの例に依りまして食後種々打解けて御話を承はりたいと思ひますから、どうぞ餘り長くならぬやう、大勢の御方が御話し下さることを御願ひ致します次第でございます。どうぞ、野呂博士に御立を願ひます。(拍手起る)

○野呂景義君 別に私は御話することもございませぬ、先刻今泉博士の御報告に依りまして、製鐵事業に關する獎勵並に關稅を引上げることが兩議院を通過したと云ふことを承はりまして我々鐵鋼工業家は非常に利益を得ましたことで、誠に祝すべきことであらうと思ひます、併し之に付て私が一言加へて置きたいことがある、彼の關稅改正を見ますと、鋼等の關稅引上はありますが、銑鐵には及ぼして居らぬやうに思ひます、固より銑鐵は協定率があつて俄に引上げるとは出来ぬと云ふことでありますが、併し何かの方法と云ふものが此處にもありさうなものと云ふことを私は信じて居ります、少くとも同じく協定稅率になつて居る他のチンプレートの如きものが矢張り彼の關稅改正に加つて居るに拘はらず銑鐵だけが何等之に話が及ばなかつたのは甚だ不満足に思ひます。世間の人は銑鐵を他所に見て鋼の業をすると云ふことは出来なないことと思ひます、なぜと云ふに、チョット私は本年一月の本會會誌にも概略のことを述べて置きましたが、經濟と云ふことを計るには、

自分が銑を拵へてさうして之を鋼にして行かなければならぬ、今日河村君にはヒートの熱量或は燃料の節約に付いては是は製鐵事業の副産物とも云ふべきだから大に勵行しなければならぬ、利益を圖らねばならぬと述べられて居る、

今日の製鐵業の副産物は銑鐵と云ふものをやつてこそ副産物と云ふものを收めることが出来る、それを顧みずして銑鐵は外から持つて來て宜いと言ふのは製鐵業と云ふことを實際に知つて言ふのではない、鋼を拵へる人は先づ資本は少くとも銑鐵は得易い者である斯う云ふ者を有つて居られるかも知れませぬ、私の見る所ではどうしても製鐵業をやるには銑鐵からやらねばならぬ鋼のみを拵へて居る様では製鐵業は根本から進歩することは出来ないと思ふ、どうも世間では餘り此の事實を認めぬかのやうに思ふ、それであるから私の希望するのは、こゝに居られる諸君は大に聲を高くして根本的に此事に付て次の議會に於て何とか獎勵法を設けると云ふことにしなければならぬ。又それより先きを考へると鐵鑛であります、此事に付きましては世間では随分やかましく言つて居りますが、何等獎勵の道を講じて居られぬ、矢張り銑鐵業を盛にするには鐵の本の鐵鑛業と云ふものの獎勵を求めて置かなければならぬと云ふことを今から要求して次の議會に聲を高く之を叫ばなければならぬと思ふ、是が私の河村君の話に依つて希望する所でありませぬ。(拍手)

○會長(香村小録君) どうか順々に御遠慮なく御指名を願ひます。

○野呂景義君 近頃北海道から出て來られた江藤君に

○江藤捨三君 私は此頃出京しまして、未だ都會の諸君には餘り御目に掛りませぬ、今日は總會に伺ひまして種々御話を拜聴いたしましたして誠に光榮に思ひます、銑鑛の關稅問題に對しましては、今野呂博士の述べられたことは誠に我々一同も同様に感じます次第であります、實は我々共の同僚が貴族院の委員會の方へ種々意見を述べまして、特別の方法を以て銑鐵に對する獎勵の方法を講じて貰ひたい、尙ほ之に對しまして説明が必要な時分には不肖ながら何時でも上がると云ふことを申しましたけれども、不幸にして我々の意見も用ゐられませぬで、今野呂博士の言はれたやうに、銑鐵だけは遺憾ながら大正十二年まで待たなければならぬと云ふことは誠に遺憾に存じます、此上は是非とも當協會のやうな有力な會を利用しまして、尙ほ明年の議會では強硬の意見を提出いたしたく存じます、一應、チョット野呂博士に御賛成だけの意見を申し上げて置きます。次は會長に願ひます。(拍手)

○香村小録君 私は先刻の一言でよいことと思つて居りましたが江藤君からの御指名に依つて、チョット思ひ付いたことを申し上げます、是まで大戦中は我々製鐵業者は鐵鋼を一噸でも多く拵へると云ふことに意を専ら注いで参りました

て、我々技術家としては却て面白味が無かつたのでございます、それから大戦が了りまして急激の變動を受けまして、全く實業界が混沌として如何に成行くかと云ふことを心配いたしました、それで技術上のことに付て一向心を配るやうな機會がなかつたのでございますが、今日となりましては略、十分なことはありませぬが、製鐵業に對する獎勵法も出來まして、漸次ノーマル、コンディションになつて參りますやうで、從て我々製鐵業者は大に經濟的作業をやり、それが爲には學術を應用して種々なる改良を圖らなければならぬ、今後内地製鐵業に對して多少の保護獎勵がありましたら、まだ、海外の強敵に對抗するには容易ならぬ覺悟を以て事業に従事しなければならませぬ、之が技術者として大なる努力を要すると共に頗る面白いことと思ひます、鐵鋼協會に於きましてもさう云ふ邊からして會の發達も大に期待することが出來ると思ひます、皆さまの種々な御研究等に付きまして、御紹介を申上げて御互に利益することが出來ましたならば、幸なことだと考へるのでございます。次は高洲さんに……

○高洲清二君 唯今は御指名を受けまして甚だ恐縮に存じます、私は一向御話することもございませぬが、鐵の消費者の中で國有鐵道は約十二萬噸になります、是は鐵の消費者としては重要な地位を占めることと思ひます、此中車輻には約五萬噸、あとの七萬噸と云ふものは橋の材料等

でありますが、戦争以來段々需用が積んで參りました、尙先へ參りますとタイヤ其他の製造と云ふものも多くあると思ひなすけれども、今日では餘りありませぬ、鐵道の車輻と云ふものは今日殆ど獨立したのであります、そこで將來鐵道の需用と云ふものは十五萬噸餘り要ると云ふのであります、今御話がありました通り、外國品に比較して高いのは是は甚だ残念であります、將來の鐵道に於ける需用と云ふものは、大凡こんなものであります、此際、チョット申上げたいことは自働聯結であります、是は現時の聯結はダメであつて、五年間に唯今の螺旋聯結機を自働聯結機に改良致したいのであります、それで近頃多少考案を廻らす人がありまして、稍實用向きのものを造りかけて居ります、此設計を了へまして然る後十分考慮して造つてから申上げることに致します、是は、チョット鐵鋼協會の爲に申上げて置きますのであります。次は加茂博士に……(拍手)

○加茂正雄君 今日、此席を見渡しました所では謂はゆるメカニカル、エンジニアと云ふ方面に於きましては高洲博士と私だけのやうに思ひます、私は何も申上げることが無いので甚だ弱りましたが、高洲博士は巧に鉢を私の方へおまわしになつたと偏に敬服いたして居ります、私の察する所では香村會長が高洲博士を御指名になつたのは今日鐵鋼のことが議會を通過いたしましたに付て、關稅に關して何か御話があるであらうと云ふ御考であつたと思ふのであ

ります、所が高洲君はそれを巧く私の所へ持つて來られたやうであります、私は矢張り商賣が似て居りますので、高洲博士と同じやうな考を有つて居るかどうか分りませぬ、關稅の事はもう時機が過去つたことで先刻、今泉博士からの御報告を拜聴いたしましたことに付ては何等申述べることは致しませぬが、唯今後は如何にして我々が鐵を經濟的に消費しなければならぬか、斯う云ふことであります、今日は河村さんからして製鐵業に於ける燃料の節約と云ふやうな御話を承はりました、併し其節約をして出來た所の鐵を浪費しろとは仰つしやいませぬけれども、鐵を儉約しろと云ふ御話はなかつたのであります、私共が考へますと云ふと、我々が使ひます所の鋼鐵と云ふものは、今日議會に於て關稅が改まりました結果、どうも今までよりも廉く鐵鋼材料が得られることになるとは考へませぬ、アブソリュートにどうの斯うのとは申しませぬが僅ばかりか多いかは分りませぬけれど幾分か高くなること、思ひます。今日に於て軍備縮少と云ふことが大分唱へられて來たやうでありませぬ、實現は餘程むづかしいことであります、將來に於きまして是が實行されるとすれば利を企てる仕事と云ふものは工業の發達に俟たなければならぬ、それを發達させるのには日本國內の市場のみを當てにせずして、少くとも歐米各國の市場を當てにすると云ふことを覺悟しなければなりません、併し私の節約と云ふのは少くすると云ふ意味では

ありませぬ、幾分でも其材料を最も巧に最も經濟的に使用することを我が鐵を消費する者が考へなくてはならぬと思ひます、どうか此點に付きましても御氣付きのことがありますならば十分御遠慮なく御示しを願ひます、同時に平賀博士の御講演を伺ひますとハンデンシヤイル、スチールのことは其材料は高いが結局出來上がつた品物は廉くなると云ふことでございます、さう致しますと、我々は材料は高くなつてもそれを使用して造上げた品物が、結局全體の値段に於て、外國の品物と比べて廉くなるといふことが日本で出來るやうに、此協會に於てそれぞれ考慮しなければならぬと思ひます。次は横堀博士に……(拍手)

◎横堀治三郎君 私は今朝東京へ參りまして幸に此會へ出席する光榮を得ましたことは有難いことと存じます、諸君と共に御欣びをすることは此鐵鋼協會は幹部の任に當らるゝ方が宜しきを得て居りますことで、別けて香村君は會長の資格として我々會員は非常に満足いたして居ります、引續きまして先刻から御話があつたやうに製鐵の保護とか獎勵とか云ふことに新しい計畫を加へつゝあるに對して、今日以後幹部諸君の御盡力を希望するのであります、先刻來伺ひますと云ふと、鐵の將來と云ふことは餘程有望であると存じます、唯野呂博士の御話のやうに銑鐵、尙ほ進んでは鐵鑛の問題ですが、私は鐵鑛の問題に付ては多少存じて居る一人であります、是は日本の鐵鑛は世界を通じて一番

廉いと思ひます、又一番粗末にされて居ると思ひます、製鐵の保護や何かで、今加茂君の述べられたやうに結局高くなるかも知れませぬが、鐵鑛は此上に於て騰げるが宜からうと思ひます、鐵鑛を上げてさうして製鐵の保護をしなければならぬと思ひます、尙ほ此機會に於て希望するのは今に於て合同すると云ふことを希望して居るので、又盡力いたして居る次第であります、兎に角日本の人と云ふものは種々細かいことに向つて非常に研究して居りますけれども、大きい所に向つては兎角忘れ勝ちになつて居ります、先刻河村君の御話の中にも歐米の製鐵所では多く瓦斯エンジンを使つて居る、熔鑛爐は三百噸のものを一基にするより百五十噸のを二基にした方が宜しい四百噸の熔鑛爐を一基にするより二百噸のを二基にした方が宜しいと云ふことであります、言葉を換へて申しますと、日本人は今申す三百噸の熔鑛爐を立派に使用すると云ふことを考へて居りますけれども、之を二基にも三基にもして一層其效力を宜しくしやうと云ふのは誠に下手なことと思ひます、理窟は巧いが合同と云ふことは下手である、合同と云ふことが疎かになる、是は私は何より大切なことと思ひます、熔鑛爐として立派なことを調べても今日は衆と共に働くものである、合同に依つて初めて立派になる世の中であります今食べて居る洋食もさうである、ビーフ、ステーキばかりでは美味ではない、種々野菜物があるとか魚があつて美味なの

である、それと同じやうに私はステーキばかり論じて居るのではない、結局合同をしてやりたいと思ふのであります、其意味から鐵の獎勵、合同は結構である、さうして獎勵が行はるれば之を實行する所の精神がなければ其效力はないのであります、兎に角鐵の合同と云ふことは言はれて居りますが事實に於て現はれない、是は何の爲に現はれないか、それは合同の精神が宜しくないからで議論はあつても實行が出来ない、是が日本の缺點であります、此意味に於て我が鐵鋼協會は立派な會長も戴いて居り、立派な技術顧問もあり、立派な幹部もあることでありますから急激なことは出来ないけれども一步一步を進めて茲に初めて獎勵法なり關係法案が政府に於て定められた趣旨が立派に叶ふ様になりたいと思ひます。次は麻生君に……(拍手)

○麻生音波君 私は此機會にチョット申し上げます、私は日露戦争の初まりから朝鮮に鐵鑛の山を探險に參り、河村さんが御出でになつて居ります三菱の鑛山にも行きました、初めは鞍山站に行つてから山の事に趣味を有つ様になりましたが、三菱の山などは大層能く分りました、昨年鐵鑛の整理を致しましたが、淺野さんの分は二十八鑛區ありましたが、私一人で有つて居るのと淺野さんのと合せたなら約百に近い鑛區の數があります、淺野さんと一緒に海州の鐵鑛區には數千萬噸あります、さう云ふ風に私は鐵鑛を澤山有つて居りますが、鐵鑛は多く政府に納めて居りましたが

今は中止になりました、それで一つの山に百萬圓餘り掛け居るのに、僅か出さして置いて、止めると云ふのは製鐵所は酷いやうです、服部博士は非常に御同情でありましたけれども製鐵所の係りの人は昔の古い時の事情を知りませぬ故に今の若人は人は慘酷です、正直であるかないか知らぬが私はさう思ひます、私は澤山、山を有つて居りますから皆様どうぞ各方面に御採用を願ひたい、今横堀博士の御話では鐵鑛は廉いと仰つしやる、私の鐵鑛も今は悲境にある此頃悟りを開いた、大仕掛の話でありますが私は朝鮮に數百萬噸の石炭を有つて居ります、今横堀博士の御話のやうに海軍では目下準備中でございますが、是は取敢へず一噸の石炭を出すことが出来、續いて六千噸は段々出すことになり、私は今米倉さんと共に有利な仕事をしやうとして居ります、私は石炭の試験を四つしました、私の山の一噸の石炭から揮發油が一斗と重油もとれます、今、米倉さんの計算されましたのは三斗餘りの揮發油と二升餘り重油が出ました、是は儲かることと思ひます、兎に角日本の人は金が儲かれば國家などはどうでも宜いと云ふ風です、我々はそんな小さい勘定はしない、重油を採つてあとは電氣を起すことにします、私は何んでも宜い、勘定さへ合へばそれで宜い、餘計な話でありますけれども石炭はリグナイトである、鐵鑛は磁鐵鑛もあります、是は澤山あります、マア種々のものを有つて居りますが、どうか之を皆さん使

用して下さい、私は高くしないから三菱でも取つて戴きます、私は話に聞いて居りますが、西洋では石炭と同じくらの値段で鐵鑛を賣つて居ると云ふことであります、そんな風であると石炭くらゐに賣りたいと思ふけれども今日はダメだ、商品ではない、どうか困つて居りますから、皆さんの所で公平な御處分を願ひます。(拍手)

○會長(香村小録君) それでは是で閉會と致します。

午後九時十五分閉會。

◎理事會

大正十年三月二十三日(水曜日)午後五時より本會事務所にて理事會を開く會議事項左の如し。

- 一、入退會者に關する件
- 一、總會に關する件
- 一、其他會務に關する件

當日出席者は左の諸氏なり。

香村 小録君 野呂 景義君 俵 國一君
鹽田 恭介君

◎編輯會

大正十年三月二十三日午後五時より本會事務所にて編輯會を開き會誌第七年第四號の原稿を選定せり當日出席者は左の諸氏なり。

井上 克己君 櫻井 爭三君 杉村伊兵衛君
 室井嘉治馬君 落合畝三郎君

◎管類規格統一調査委員會

大正十年三月二十三日午後六時より本會事務所にて管類規格統一調査委員會を開く、會長香村小録君の提議にて野呂景義君を委員長に推薦するの件を可決し、次に調査項目を選定し原案の作製方を松下君、渡邊君、香村君、野呂君に委任せり、出席者は左の諸氏なり。

香村 小録君 野呂 景義君 倭 國一君
 鹽田 泰介君 松下 長久君 渡邊 新君
 井上 克己君 櫻井 爭三君 杉村伊兵衛君
 室井嘉治馬君 落合畝三郎君

◎圖書寄贈

大正十年四月十六日今泉嘉一郎氏より同氏の翻譯出版に係る

米國鐵鋼コーポレーションの組織及其成立史 五十部
 寄贈せられたり。

◎入退會者

前號報告後入退會を承諾せられたる會員左の如し。

退會者 (住所及職業)

福岡縣嘉穂縣幸袋町、鐵工業

日本鐵鋼協會記事

正員 山口 男

入會者 (住所及職業)
 大阪市外住吉村字帝塚山、住友伸銅所員、工學士正員 加藤 榮
 東京市京橋區月島東伸通十ノ十二、鐵工業 岡 佐野正三郎

◎轉居

前號報告後轉居者の新住所左の如し。

東京市日本橋區本草屋町日本製鋼所技術部	杉山 兼次
東京市外淀橋町大字柏木八八一	横田 庄藏
東京市外北品川品川白煉瓦株式會社	梅田 音五郎
東京市小石川區東京砲兵工廠小銃製造所	田中 元次郎
東京市神田區堅大工町二〇	平田 庫三
福岡縣八幡市製鐵所	鷗 瀨新五
愛知縣豐橋市本十九番地	岡田 權四郎
東京市麻布區筭町八八	江藤 捨三
名古屋市外御器所村荒畑十五	伊藤 久米藏
長野縣諏訪郡下諏訪町工材株式會社	佐野 時造
仙臺市土樋一六四、武藤方	村田 榮太郎
東京市本郷區根津宮永町九	鈴木 武司
神奈川縣川崎町小土呂新地三四五	尾池 四郎
兵庫縣尼ヶ崎市東難波八六三	團野 喜久馬
兵庫縣武庫郡西宮町字川尻二五八七	鹽田 實造
大阪市外天王寺村字天王寺二二二一	三輪 元次郎
八幡市前田祇園町一丁目、橋本方	福本 二男
廣島縣安藝郡仁保村日本製鋼所廣島工場	荒木 彬
福岡縣戸畑町戸畑鑄物株式會社	田代 一
神戸市脇濱町一丁目神戸製鋼所	本村 一郎

改姓 (舊) 本田一男 (新) 森寺一男

正誤

前號九十一頁 第五行は全部誤にて朝鮮兼二浦三菱製鐵所員准員村田二次郎を正とす

死 本會正會員沖馬吉君は本年一月逝去せらる誠
亡 哀悼の至りなり謹て弔す